

■小田氏治 戦国大名。常陸名族の小田城主で、人望もあり、合従連衡のなか、落城・奪還を繰り返すも、ついに滅亡した。

おだうじはる

天王寺合戦・1531＝

常陸國小田城で、小田氏14代政治の子に生まれる。室町幕府第12代将軍足利義晴の従弟に当たることからも分かるように、_小田氏は、宇都宮氏の一門、鎌倉時代の武将八田知家を祖とする名族の関東八屋形の一つで、小田城を、350年も保ち続けてきた。

..... 1540＝ 9歳：

鉄砲伝来・・ 1543＝12歳：

父の代に、河越夜戦で関東管領上杉・古河公方足利連合軍に味方して敗れ、北条・佐竹両氏の拡大で、勢いに陰りが見え始め、下総の結城城主結城政勝が最大の敵となるなか、関東に勢力を伸ばす北条氏に対して、古河公方足利氏と、山内上杉氏・扇谷上杉氏が同盟を結んで、北条氏の支城を攻めた_河越城の戦いに、父に従って初陣、北条氏の奇襲に同盟軍は惨敗、常陸へ逃げ戻る。父が死去して、小田氏の家督を相続。配下の真壁城主真壁久幹が結城方へ寝返ってしまった上、政勝が、下妻城主多賀谷政経も配下にし、相模の北条氏康の助力を得ることに成功して、強大になったため、

ザビエル来日 1549＝18歳：

大陸邦民事件1555＝24歳

..... 1556＝25歳

..... 1557＝26歳

..... 1558＝27歳

大友府内開港1559＝28歳

常陸太田城主佐竹義昭と共に出兵し、結城政勝を攻めると、北条氏康から援軍を授けられて、小田領へ侵入した政勝を迎え撃つも敗れ(海老ヶ島城の戦い)で敗れ、居城小田城も奪われたが、佐竹義昭に対抗しようとする氏康と和解することになって、結城勢を追い払い、小田城へ戻り、*合従連衡に振り回されて、居城を奪われては戻るといふことこの繰り返し人生が始まる。海老ヶ島城が、佐竹義昭に攻撃されたため、その配下の下妻城攻撃に向かうも、義昭が救援に駆けつけて敗北し(黒子の戦い)、土浦城へ逃れるが、家臣で土浦城主の菅谷政貞が、小田城を奪回し、_早くも2回目。宿敵結城政勝とその子が相次いで死去した機に乗じて、結城城に押し寄せるも、在城する政勝の実弟小山高朝に敗退した上、逆襲に遭い、北条城を奪われ、海老ヶ島城も佐竹・多賀谷連合軍に攻められて、落城。越後の上杉謙信が、北条氏康に敵対する関東諸将からの要請に応え、自ら関東へ出陣すると、殆どの関東諸将同様、謙信に従がうが、結城氏新当主晴朝は、引き続き北条氏康と結んでいたため、佐竹義昭・小山高朝の子で新当主の秀綱と共に、結城城を攻撃、降伏させる。謙信が、小田原城を攻撃に乗り出すと、関東諸将とともに参陣したが、陥落には至らず、謙信は越後へ帰国して終わる。海老ヶ島城奪回を図るも、常陸中部に勢力を張って佐竹義昭の支援を受ける府中城主大掾貞国と敵対し、氏康の誘いに乗って、上杉方から北条方へ寝返り、再び関東出兵した謙信に合流するため出陣した佐竹義昭の留守を突き、三村の戦いで大掾貞国を破り、下野の那須資胤や結城晴朝とも相応援することを約して、佐竹義昭に対抗。佐竹義昭らに、背信を謙信に訴えられ、上杉軍の速攻に大敗して、小田城は落城し、藤沢城へ逃れるが、佐竹義昭が死去した混乱を突いて小田城を守る佐竹義廉を追い、居城の奪還に成功。_3回目の直後、謙信の再度の出兵に遭い、再び小田城から敗走し、義昭の子佐竹義重を討つため、甲斐の武田信玄への援助を求めている。謙信に降伏を申し出、城壁を修復しないという条件で認められ、小田城を回復した。_4回目となり、信玄に対抗するため、上杉氏と北条氏が越前同盟を結ぶという事態に対応できずにいるうち、佐竹義重軍に攻め寄せられ、迎撃させるも、惨敗し、小田城は落城、藤沢城に落ち延びるが、父の代からの宿敵結城氏が小田領へ侵入した際は、援軍を派遣して、夜襲により大勝を収め、重臣の菅谷政貞の知恵により奪還に成功。_5回目、佐竹軍を率いる太田資正の奇襲に奪われた小田城を、すぐに奪還。*6回目と続く。このように繰り返し奪還できたのは、譜代の家臣団の団結が如何に強固であったかを示すものがあるが、この時の奪還の際には、逃げ隠れていた百姓たちが城下町帰ってきたことも記され、領民からも慕われていたことが分かる。その直後、手這坂の戦いで、義重・太田資正に敗れて居城の小田城を再び失い、土浦城へ敗走、さらに藤沢城に逃れ、小田城に入った太田資正と激戦、藤沢城に押し寄せる佐竹勢を退ける。この年には、北条氏との盟約を成立させ、佐竹氏との和睦の動きもみられるなど、外部の大名権力に頼ることなく、独自に地域紛争の解決にあたったことがわかる。小田城奪回を目指したが、佐竹の援軍が駆けつけたため、奪回はならず、逆襲に転じた佐竹方びよって、藤沢城も落城。土浦城も攻め込まれ、

川中島最激戦1561＝30歳

..... 1566＝35歳

織田信長入京1568＝37歳

京都宣教師許可1569＝38歳

石山合戦始・1570＝39歳

比叡山焼討・1571＝40歳

室町幕府滅亡1573＝42歳

..... 1574＝43歳

安土城築城・1576＝45歳：

安土楽市楽座1577＝46歳

上杉謙信没・1578＝47歳

石山合戦終・1580＝49歳

*奮戦するも、降参するものが続出したため、ひそかに脱出し、ついに落城、著しく劣勢となったが、なお、再起する力を温存して、北条氏の出陣を得て、土浦城を奪回。以後も、小田城奪回をめざし、佐竹氏の混乱の中で再起を図り、援軍も得て手子生城を奪い返し、入城して、佐竹義重に対抗。梶原政景によって攻め落とされ木田余城は、菅谷範政に奪回させたが、再び佐竹勢に取り返され、北条氏政が弟を常陸へ攻め込ませた際、佐竹氏に奪われていた谷田部城を落城させるも奪い返されるなど、もはや北条氏の援助なしに佐竹氏に対抗できなくなったが、_滅ぼされず、出家して天庵と称した後も、

本能寺の変・1582＝51歳：

豊臣秀吉関白1585＝54歳

秀吉太政大臣1586＝55歳

刀狩海賊取締1588＝57歳

秀吉全国統一1590＝59歳

藤沢城を佐竹方から奪回し、_戦を続け、結城氏から独立し佐竹方となった下妻城主多賀谷重経に小張城を落とされ、足高城も攻められるも撃退。佐竹義重に攻め寄せられて敗れ、手子生城へ逃れ、佐竹方の真壁氏幹に藤沢城を攻められている。*これを最後と、小田城奪回に出陣、佐竹方は梶原兄弟らが迎え撃つなか、優勢に戦いを進めるが、急報を受けた梶原兄弟の父大田資正が駆けつけたため、奪回はならず、手子生城へ帰還。救援を求めた北条氏政は、豊臣秀吉の攻撃に晒され、北条氏滅亡後、'小田原攻めの秀吉軍に参陣せず、豊臣方の佐竹氏に反旗を翻し、小田城奪還の兵を起こした'ことを理由に所領を全て没収され、大名としての小田氏はここに滅亡。奥州巡察に向う秀吉を追って会津へ行き、浅野長政を通じて謝し、許されて、結城秀康(徳川家康の次男で秀吉の養子、後に結城晴朝の養子。氏治の娘は秀康の側室)の客分として300石を与えられたが、

士農工商公布1591＝60歳

ルッ鳥通交・1594＝63歳：

関ヶ原の戦・1600＝67歳

朱印船制始・1601＝70歳

結城秀康の転封に従い、嫡男守治と共に越前浅羽に移った。同時期に庶長子友治も結城家に仕えている。_没した。氏治と宿敵関係にあった佐竹義昭は上杉謙信に宛てた書状の中で、'氏治は近年弓矢の道は衰えたものの、右大将家(源頼朝)以来、名望のある豪家であり、氏治もまた普通に優れた才覚があり、譜代の家人も覚えの者が多く、とにかく家名を保っている'と評価しているように、従来いわれてきた'戦国最弱の大名'というレッテルは当たらないであろう。